

会議記録

【2011/12/21 作成者：渡部】

第1回 (通算)	実施年月日	2011年12月19日(月)
	実施時間	13:00～15:00
開催場所	県庄内総合支庁 第31会議室	
参加者	山形県教育センター 指導主事	齋野正能
	体験観光アドバイザー	井東敬子
	山形県庄内総合支庁環境課 課長 課長補佐 主査	石垣清志 蛸井善久 渋谷陽一
	特定非営利活動法人パートナーシップオフィス	金子博・大谷明・渡部陽子
会議内容	<p>1. 海洋(海岸漂着)ごみ問題～これまでの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海洋(海岸漂着)ごみ問題は、地球規模の問題でありながら、長らくだれが責任を持つか、具体的に検討されてこなかった。2003年の「離島ゴミサミット・とびしま会議」や2006年「ICC&ワークショップ in 山形 2006」などを通して、山形県でも取り組みが広まり、2009年には「海岸漂着物処理推進法」が制定された。 ○環境教育の中に海洋教育(海洋ごみ)を取り入れているところは少ない。 <p>2. 環境教育、海洋教育・海洋環境(海洋ごみ)教育の実状について(情報共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山形県の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年に改訂された「山形県環境教育指針」をもとに学校のカリキュラムが決められている。 ・現状では、総合的な学習の時間が減らされたために、環境教育に割く時間が減ってきている。 ・学校の環境教育の現場においては、行動すること自体が目的になっており、イベント型、一過性のプログラムがほとんどである。 ○指導者養成講座について <ul style="list-style-type: none"> ・「環境」という科目があることが理想的だが、それぞれの科目に環境の要素を入れ込むことが現実的である。 ・環境教育のカリキュラム作成に悩んでいる高校もあるので、こちらから提案してみるのも良いのでは。 <p>3. 本研究会における学習用教材の検討における基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境教育の進め方として、以下の3点を具体例として挙げる。 <ol style="list-style-type: none"> ①モデル校を選び、その学校と連携し1年を通したプログラムを企画し、実施する。 ②学校独自に実施しているごみ拾い活動の前後に環境教育のプログラムを組み合わせる。素材集の提供が喜ばれる。 ③関係団体(NPO、自治会、組合等)に学習用教材を提供し、使用していただく。 ○DVD『美しい山形の海と川を取り戻すために 子ども版』について <ul style="list-style-type: none"> ・中身が詰まりすぎていて、子供たちに見せる内容としては難しい。 ・教材は揃っているが、誰が使うのか・誰に伝えたいのか・何を伝えたいのかを固めなければならない。 ・先生用の教材として、また環境教育の最後のまとめとして活用できる。 <p>4. 次回以降の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第2回研究会を2012年1月中旬で調整していく。 ○助言者の招請：由良小・教頭の鈴木義彦先生、泉小の佐藤千佳夫先生 	
備考	○環境教育の議論の場である連絡組織があれば良い。	
次回開催	○今後、メール等で日程調整を行う。	